

『交流活動を通して学校や地域においてたくましく生きる児童の育成』

あま市立碁目寺西小学校

1 目的

校訓「明るく やりぬく たくましい子」のもと、様々な人との温かいふれあいを大切にした学習の場を積み重ねていくことにより、互いを思いやることの大切さを学ばせるとともに、規範意識の高揚も図っていききたい。

2 内容

(1) 多様な交流（児童・地域・国際）の場を通して温かい人間関係づくり

ア ペア学年活動（異学年交流活動）

昨年度まで縦割り班活動に取り組んできた子どもたちに、さらに成長の階段を登らせるべく、ペア学年活動へと進化・発展させました。1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生をペア学年として、給食や清掃、休み時間の遊びなど、日常生活の様々な場面での温かなふれあいの中で、ルールやマナーを教えていくようにさせていく活動に力を注ぎました。

そこで本校の伝統的な活動になりつつある高学年による「読み聞かせ」も、ペア学年で取り組むことにしました。自分のペアをはっきりさせたことで、高学年はこれまで以上に下級生の目線で本を選び、読み方を工夫して練習していました。そんな上級生の思いは、下級生の子たちにもしっかりと伝わったようで、皆、うれしそうに聞いていました。互いを気遣い、互いの思いを受け止め合い、教室は、温かく和やかな雰囲気になりあふれていました。



－ペア学年による読み聞かせ－

イ にっこクリーンキャンペーン

毎年6月には、地域の方々とともに、学校周辺の道路の清掃に取り組んできました。保護者の方々に加え、地元の老人会の皆さんやあま市ゴミゼロ運動推進連絡会の皆さん、さらに今年度は、子どもたちが「協力のお願い」を配らせていただいたご家庭の方も参加してくださり、子どもたちの安全を見守りながら清掃活動を助けてくださいました。

ウ スリーハート運動

本校では、毎年、規範意識の高揚と人権モラル向上をめざした「スリーハート運動」に取り組んでいます。児童と保護者、地域の方々が知恵を絞った標語の中から、優秀作品を選び、1枚のポスターにまとめたものを高学年の子どもたちが学区の公共施設や商業施設等へ出向き、掲示してもらいました。

エ マロニー小学校との交流

3年前より、アメリカ・マロニー小学校との交流活動を進めています。今年

度も、互いの国の特有の文化を紹介し合えるよう、工夫をした作品交換をする
とともに、Skype を利用したテレビ電話を使って、交流を深めました。

(2) 挑戦する土台づくり

ア 増田喜昭さんの読み聞かせ

「読書は思いやりの心を育てる！」と言われ、
本の中に出てくる人の気持ちを想像することは、
相手の気持ちを考えることであり、人を思いや
る気持ちを育てることにもつながります。そこ
で人権学習会として、各地で講演を行いながら、
子どもたちに本の素晴らしさを発信してみえる
増田喜昭さんをお招きしました。登場人物の心
情や面白さが加えられたテンポのよい読み聞か



－ 増田喜昭さんの読み聞かせ －

せに、子どもたちはどんどんと引き込まれていきました。中でも「ドアのノブ
さん」の読み聞かせには、「ドアノブという言葉を読まない物にも思いがある」
と語りながら、「口数が少ない子が内に秘めた願いや思いを察してあげてほし
い！」という増田さんの子どもたちへのメッセージが込められていました。

イ 外部講師の招聘

外部から講師を招き、温かいふれあいを大切にした学習活動を進めるととも
に、私たち教師の力量向上にもつなげています。

- * 地元老人クラブ（伝承遊び：1年） * 佐藤醸造（醤油造り：3年）
- * カルビー食品（おやつと健康：3年）
- * ドリームマップ普及協会（将来の夢：4年）
- * 中日新聞地元営業所（新聞づくり：5年）
- * ケータイ・スマホ安全教室（防犯教育：6年）

ウ 現職教育の充実

合唱指導や学習発表会での演技指導、Q U 検査の分析について、専門講師を
招いて研修を深め、教師の力量向上を図りました。

3 評価

温かい出会いとふれあいを大切にした活動を計画的に積み重ねてきた中で、
規範意識を高め、互いを尊重し合う児童が着実に育ってきています。

4 課題

多様な取組を通して、子どもたちは、互いを気遣い、相手の目線に立っても
のごとを考えることができるようになってきました。こうした姿を一時的なも
のに終わらせず、継続した力、つまり実践力へとつなげていくため、あらゆる
場面において、繰り返し、子どもたちに働きかけていきたいと考えています。